

## 言語・文学分野の参照基準 論点メモ (2011-04-22)

## 議論の前提

- 基本方針：「ことばが人と人をつなぐもっとも基本的な人間の営みである」（庄垣内）ことを出発点として、「言語・文学」という分野（カテゴリー）を策定の対象とする。
- 参照基準の組立て：サンプル（教育学）を叩き台とするが、QAA, Honours degree benchmark statements (English, Languages and related studies, Linguistics etc.) も参照し、分野の特性を考慮して必要な修正を加える。（どこまで修正可能か？ 基本的な構成項目には従わなければならない。）
- 「言語・文学」を最初から学問や学科（ディシプリン）の枠に閉じ込めるのではなく、それが人間の営み（発達と学習；教育，知情意の働きと展開，対人・対社会関係，職業生活，市民生活）の基本的な構成要素であり，あらゆる段階，あらゆる分野の学習と教育に浸透していることを確認する。その上で，言語と文学の特性とそれが学習・教育さらには研究において占める位置と果たす役割を説明する。
  - 言語については，それが人間にとって基本的な社会的・文化的環境であると同時に，環境に対して働きかける道具であること，話し言葉としての第一言語（母語）は制度化された教育の介入なしに，家庭と近隣の間人間関係を通じていわば自然に習得されるが，発展した社会的・文化的環境（職業生活，市民生活，精神生活等）で使用される書き言葉および書き言葉に媒介された談話（discourse）については，その能力を獲得し，さらに増進させるためには，体系的な教育と学習が必要であることを強調する。
  - 文学については，文学教育・研究の理念と実践から考えても，「文学」あるいは「literature」という語と観念の歴史的変遷から考えても，狭い意味での近代的な文学（書記言語または音声言語を媒体とする美的・芸術的な創作活動とその成果）に限定されず，文学的であれ非文学的であれ，原理的にはすべての書かれたテキスト（文書・文献）が対象になることに注意を促す。
    - ◇ この点については，QAA, «English» における学科としての English の定義が参考になる。「English is a versatile academic discipline characterised by the rigorous and critical study of literature and language. It is concerned with the production, reception and interpretation of written texts, both literary and non-literary; and with the nature, history and potential of the English language.」
  - 広義であれ，近代的な狭義であれ，文学は言語の学習・教育と密接に結びつ

いていることを強調する。教科や学科としての「国語」，“English”，“français” という名称は，言語と文学の一体性の表現である。

- ディシプリンの観点に立った場合，言語・文学はきわめて多面的で幅広い領域を覆っているばかりでなく，人文科学・社会科学・自然科学を問わず，他の分野・ディシプリンに浸透してその構成要素になっていること，また他の名称のもとに言語・文学の教育・学習が行われていることに注意を促す。さらに言語・文学は，教養教育・共通教育の重要な柱となっていることも強調する。可能であれば，初等・中等教育，さらには生涯教育において言語・文学の果たす役割に言及する。
- 言語・文学を自覚的に学ぶことでいかなる能力が養われるか：リテラシー，それも高度な水準のリテラシー（an advanced level of literacy, 2.6；advanced literacy, 3.3）。高度なリテラシーとは何か？ その内容：
  - ▶ 書かれたテキストであれ談話であれ，その直接的な内容・メッセージばかりでなく，それが誰によって，いかなる意図に基づいて，いかなる技法を用いて，いかなる効果を生み出すことを目指して生産されたかを読み解き，それに対して適切な応答，とりわけ言語による応答を行い，さらには自立した文章——職業上の必要，研究・教育上の要請に基づくものであれ，実践生活の枠を超えた精神活動の発現であれ，オリジナルな文章——を作成する能力。またテキストと談話を，その背景にある社会的・文化的・政治的・歴史的文脈の中に置きなおして，それが読み手とその共同体にとって，いかなる意味と価値をもつかを検討し，批判し，評価する能力。
  - ▶ この意味でのリテラシーの対象は，テキストと談話ばかりでなく，音声やイメージによる表現，いわゆる表象文化の生産物にも，さらには他のディシプリンの成果にも拡張することができる。コンピュータ・リテラシー，科学技術リテラシーといった表現がなされるのは，その証左である。
  - ▶ 大学教育の水準におけるリテラシーへの関心は近年急速に高まりつつある。たとえば，昨年（2010年）には，フランスのリル第三大学で，「大学のリテラシー（Littéracies universitaires : Savoirs, Écrits, Disciplines）」をテーマとする国際研究集会が開催されている。そこでは，フランス語の Littéracies universitaires が，アメリカ合衆国における Compositions Studies，イギリスにおける Academic Literacies に対応するものとして議論の対象になっている。
- ディシプリンとしての言語・文学の広がり内容：既成の下位分野・ディシプリンを列挙するのではなく，当該分野にいかなる側面，いかなるアプローチがありうるかという観点から記述する。
  - ▶ 個別言語（自国語・外国語・国際共通語）の習得，およびその運用能力とりわけリテラシーの育成：個別言語とそれに関連する学科（Languages and

related studies)

- ◇ 自国語（日本では日本語）の教育は、従来主として初等・中等教育の対象であったが、職業生活・市民生活における高度なリテラシー（advanced literacy, academic literacies）の必要性が世界的に認識される現状では、大学のレベルにおいても、それが独立したディシプリンとして教えられるかどうかは別にして、教養教育・共通教育、専門教育を問わず、教育の重要な構成要素である。
- ◇ 言語の学習・教育に関する理論的反省と実践への応用：外国語教育学。
- 言語に関する意識的・理論的な考察とその応用：言語学。
- あらゆる文書・文献の生産・受容・解釈に関する考察とその応用：広義の文学あるいは文献学。
- 近代的な意味での文学作品の生産・受容・解釈に関する理論的・批判的考察と実践：文学（文学研究，批評，創作）。
- 文字の織り成すテキストと緊密に結びつきながら、その他の表現媒体（音声，イメージ）を通じて実現される文化的産物（演劇，映画，漫画等）の生産・受容・解釈に関する理論的・批判的考察と実践：Communication, media, film and cultural studies.

## 付録

参照基準の枠組：基本的な構成項目（「趣旨の解説と作成の手引き」による）

1. 当該学問分野の定義
2. 当該学問分野に固有の特性
3. 当該学問分野を学ぶすべての学生が身に付けることを目指すべき基本的な素養
4. 学習方法及び学習成果の評価方法に関する基本的な考え方
5. 市民性の涵養をめぐる専門教育との関わり

\*各分野の事情に応じて、6として独自の項目を設定したり、適宜参考資料を付したりすることも可能。

## QAA, Honours degree benchmark statements の構成項目

### English :

1. Defining principles
2. The nature and scope of English
3. Subject knowledge and skills
4. Teaching, learning and assessment
5. Benchmark standards

### Languages and related studies

1. Introduction
2. Defining principles
3. Nature and extent of languages and related studies
4. Subject knowledge and understanding
5. Skills
6. Teaching, learning and assesment
7. Benchmark standards

### Linguistics

1. Introduction
2. Defining principles
3. Nature and extent of linguistics
4. Skills
5. Teaching, learning and assesment
6. Benchmark standards

### Classics and ancient history (including Byzantine studies and Modern Greek)

1. Introduction
2. Classics and ancient history (including Byzantine studies and Modern Greek)
3. Attributes of an honours graduate in classics and ancient history (including Byzantine studies and Modern Greek)
4. Learning, teaching and assessment
5. Standards of attainment in classics and ancient history (including Byzantine studies and Modern Greek)